

職場で気軽にリモート「雑談」

コミュニケーション新時代①

新年度が始まった。入社や異動で新しい仲間と出会う人も多い。コロナ下でオンライン研修やテレワークが定着するが、同僚とのコミュニケーション不足が悩みの種だ。気軽に「会話」や「雑談」ができるよう工夫したり、新たなサービスを提供したりする企業もある。



NECネットワークエスアイの職場ではテレワークの社員と大画面でつながる＝東京都中央区

日立ソリューションズ・クリエイトの「仮想オフィスサービス」のイメージ＝同社提供

仮想空間で交流 ストレス解消

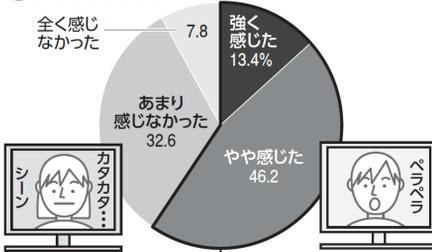
メタ（旧フェイスブック、FB）も提供しているネット上の仮想空間「メタバース」は世界中で利用され始めている。これを新人の交流の場として取り入れたのが印刷大手の凸版印刷だ。仮想店舗に関するメタバースを開発しており、研修向けにカスタマイズした。社員は自分のアバター（分身）を動かし、近くと同僚らに話しかける。リアルで会話する感覚を再現できるようにした。

凸版は2年前からオンラインだけで新人研修をしており、今年が3年目。バーチャルリアリティ（VR）で文化財を見学する内容もある。担当者は「先輩社員も含めてネットでコミュニケーションをとれるようにしている。新入社員は不安をなくすサポート体制

テレワークでは雑談が大切だ

リクルート調べ。2020年9月に全国の20～60代のテレワーク就業者2213人が回答

テレワーク開始前にはなかった仕事上のストレスを感じたことはありますか？



ストレスを「強く感じた」「やや感じた」人のうち解消できていない人の割合



テレワーク中の雑談が全くない人の割合



多くの企業が使うビジネスチャット「Slack（スラック）」でも工夫を凝らしている。新入社員らが相談できるよう、雑談専用のチャンネルを設けた。資料の作り方を学びたいという投稿があれば、気づいた先輩がお薦めの本をすぐに紹介するなど、反応の早さが特徴だ。

入社7年目の福島由佳さんは、結婚を機に北海道函館市に移り、2年前からテレワークをする。東京の同僚らとはオンラインで毎日話す。実際に職場で会ったのは2020年4月以降に1度だけだ。悩みを抱え込まずに相談するように心がけてきた。「私」のことを気に掛けてもらい、職場の人たちに支えられていると感じている。困るのは紙の提出物を社外向けに出すときくらいです」という。

システム開発会社の日立ソリューションズ・クリエイトは、仮想オフィスサービスを3月から売り出した。社員の心が和むよう、温泉旅館やキャンプ場といったデザインのプロアに着席するようにした。顔写真にコメントを表示でき、「ああ、忙しい」「おなかすいた」といった冗談も言える。一般的なオフィスの画像を元にした「360度パノラマビュー」のプロアに移ることもできる。このサービスは人事部の要望も取り入れ、2021年に社内では実証実験をし

研修リアル望む声も

ITを駆使しオンラインを進化させる取り組みがある一方で、リアルに帰する動きもある。就職情報サービスを手がける学情が、今年の新入社員研修の方法について企業に2月にアンケートしたところ、「例年と同規模でリアルで実施」が53.1%と最多だった。前年は31.0%で、まん延防止等重点措置の解除を見込んで対面を重視するところが増えた。「オンラインとリアルを組み合わせて実施」が24.3%、「オンラインで実施」は3.7%だった。

リアルで会いたいという希望は新入社員側にもあるようだ。選考や内定後のやりとりがオンラインだけの人もいた。学情が昨年12月に発表した調査では、新入

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。（承諾番号22-1111）